

多文化交流時代への挑戦



御手洗昭治 編著
小笠原はるの 著
ファビオ・ランベッリ 著
ゆまに書房
2011.5

近著の特徴は、(1)これからのグローバル時代を担う人々が身につけなければならない、多文化を理解し、交流を図るために必要な基礎的なコミュニケーション能力など、これだけは知ってもらいたいという情報やノウハウをまとめた「心得帳」であること。(2)本著で取り上げたテーマは、これからの時代に生きる人々にとっては好むと好まざるにもかかわらず直面しなければならないものばかりであり、そのために従来の異文化交流や異文化コミュニケーションのフレームワークを拡大したものになっている。(3)本著のプロジェクトと執筆に携わった3名は、長年にわたって海外経験を持つとともに、「文化」と「ことば」、それに「コミュニケーション」、「文化と人間の関係」や「多文化とのネゴシエーションや交流のあり方」等を探求してきた研究者達であることである。

本書の構成であるが、第1章では、多文化を理解し、コミュニケーションや交流を営む上で最も重要なポイントは、多様な文化を大局的に観る視点を培うことである。そのため、文化を支える5つの要素として「文化のペンタグラム」というコンセプトを構築した。「文化のペンタグラム」には、言語記号圏や生息圏や人間圏はむろん、経済・商業圏と人智・精神圏について説明を加えた。第2章では、「文化とは何か?」について文化人類学の視点と、クール・カルチャーやサブ・カルチャー、それに「文明と文化」などに関連させハンチントンの理論なども紹介した。

第3章では、オバマ大統領のコミュニケーション・スタイルを分析し、わかりやすく解説し、第4章では「日本における国際交流の流れとマルチ・カルチャー認識度」について扱った。第5章では、「記号言語圏」の枠組みの中で、言語と文化とコミュニケーションの関係について、翻訳・通訳と文化の関係と通訳泣かせ～言語と文化に対する危機管理～について分析を試みた。第6章では「異文化とのネゴシエーション」の流儀と心構えについて紹介を加えた。第7章では、「グローバル化とその種類」、それに第8章では、新たに「3・11大震災」と日本の復興シナリオと多文化との交流ネットワークについて書き下ろしを行った。多文化をつぶさに観察してきた世界的に有名な建築家である安藤忠雄氏や英国の経済学者でもあるビル・エモット氏の復興案についても触れてみた。第9章では「内なる多文化主義」についての言及があり、文化のメカニズムと多文化主義の理論と倫理、それに「多文化としての宗教：サンタクロースの文化史」についての記述が加えられている。

本書を手にした読者が、これをきっかけに多文化との交流やコミュニケーションに興味を持ち、いずれ多文化間の橋渡しとして活躍してくれる人の現れてくることを切に願っている。

第2開架閲覧室 [361.6 || Mi59]

執筆者を代表して 御手洗昭治(文化学部教授)

